

会議録

会議録	平成27年度 第3回豊田市公共交通会議
次 第	<p>1 開 会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議 事</p> <p>【協議案件】</p> <p>(1) 地域公共交通活性化再生法に基づく法定協議会機能の追加について</p> <p style="padding-left: 2em;">◆規約の改正、次期公共交通基本計画の地域公共交通網形成計画への位置付け</p> <p>(2) 次期公共交通基本計画における個別施策の設定</p> <p style="padding-left: 2em;">◆次期公共交通基本計画の個別施策の検討</p> <p>4 その他</p> <p style="padding-left: 2em;">次回、会議の開催予定について</p> <p>5 閉 会</p>
日 時	平成27年10月28日(水) 13:30～15:30
場 所	豊田市役所 南庁舎5階 南52会議室
出席者 (敬称略)	<p>【委員】 野田 宏治 (豊田工業高等専門学校)</p> <p>荻野 弘 (豊田工業高等専門学校)</p> <p>岩田 明 (国土交通省中部地方整備局名古屋国道事務所)</p> <p>古橋 靖弘 (国土交通省中部運輸局愛知運輸支局)</p> <p>小久保 信 (愛知県振興部交通対策課) (代理:瀬古)</p> <p>高嶋 敏博 (愛知県豊田加茂建設事務所)</p> <p>庄田 元久 (愛知県豊田加茂建設事務所足助支所)</p> <p>柴田 学 (豊田警察署交通課) (代理:緒方)</p> <p>近藤 直人 (豊田市都市整備部)</p> <p>土居 友二 (豊田商工会議所)</p> <p>小澤 伸也 (豊田市社会福祉協議会) (代理:川合)</p> <p>阿羅 勝彦 (豊田市区長会)</p> <p>二宮 京市 (豊田市高齢者クラブ連合会)</p> <p>澤田 恵美子 (豊田市消費者グループ連絡会)</p> <p>町田 利雄 (豊田市PTA連絡協議会)</p>

	<p>加藤 憲治 (愛知県タクシー協会) 大久保 彰 (愛知県交通運輸産業労働組合協議会) (代理: 田村) 今川 孝英 (名古屋鉄道株式会社) (代理: 梅田) 近藤 博之 (名鉄バス株式会社) 境 政義 (豊栄交通株式会社) 安達 雄彦 (愛知環状鉄道株式会社)</p> <p>【事務局】 豊田市 都市整備部交通政策課</p>
資料	<p>1. 次第・配席図 2. 資料1～2: 豊田市公共交通会議 平成27年度第3回会議資料</p>

(要約)

3 議事

【協議案件】

(1) 地域公共交通活性化再生法に基づく法定協議会機能の追加について

◆規約の改正、次期公共交通基本計画の地域公共交通網形成計画への位置付け

- 事務局 資料1に基づき説明。
- 委員 位置づけによって何か具体的に変わることはあるか。
- 事務局 年度当初より次期公共交通基本計画は公共交通網形成計画に位置付けることを想定していた。協議会についても、国の制度を活用するものであり、これまでとやり方が大きく変わることはない。
- 委員 網形成計画策定後、再編実施計画を策定する予定はあるか。
- 事務局 現時点では再編実施計画を策定する予定はない。
- 委員 目標設定はどうするつもりか。
- 事務局 基本計画の中で設定する。
- 委員 市全体の計画であり、地域ごとにどういった施策がなされるのか分かりにくいので、分かりやすい説明をして欲しい。

<協議結果: 全員賛成>

(2) 次期公共交通基本計画における個別施策の設定

◆次期公共交通基本計画の個別施策の検討

- 事務局 資料2に基づき説明。
- 委員 現在、自転車置き場の整備、サイクルアンドバスライドはどの程度実施しているのか。またすでに自転車置き場が整備されているバス停があれば、バスマップに表記してはどうか。
- 事務局 現在はバス停に近接する公共施設の自転車置き場を利用しており、サイクルアンドバスライドという形で整備したものはない。次年度以降、次期基本計画に基づいた施策として、公共交通ネットワークの質を向上するために結節点や主要なバス停について、上屋や自転車置き場を整備していきたいと考えており、整備が進めばバスマップ等への記載も進めたい。
- 委員 地域によっては公共交通サービスの恩恵を受けられていないという意見も

ある。このことについてどう説明をしていくか。

- 事務局 基本方針1に基づいてサービスを向上し、実際に使うことができるサービスを提供していくことを考えている。また、公共交通ネットワークについても検証し、空白地区については新たな路線を検討していく。これによってなるべく多くの市民が公共交通サービスを利用できるようにしたい。
- 委員 通勤時の渋滞が激しいが、基本方針2にある企業との共働によって対策をしていくべきではないか。
- 事務局 これまでも TDM 施策を実施しており、エコ交通をすすめる会の取り組みを企業等と行っている。
- 委員 基幹バスは車いす対応だが、地域バスは対応していない。今後、福祉対応車両の導入は検討していくのか。
- 事務局 地域バスは地域ごとに車両の種類が様々であり、完全に福祉車両にすることは困難であるが、計画で大きな方向性を示し、各運営協議会で具体的な導入可否について検討することになる。
- 委員 パークアンドライドについては、周辺部や支所ではなく、豊田市中心部で駐車してバスに乗っていくということもあり得るのではないか。
- 事務局 鉄道駅周辺については、民間駐車場のないところについて市が駐車場を整備している。
- 委員 足助地区において定時定路線の地域バスが走っているが、デマンドバスのほうが良いのではないか。
- 事務局 地域バスは運営協議会で検討するものであり、この場でどういう形態が望ましいということを示すものではない。
- 委員 バスや鉄道の代わりにタクシーを利用する人もいる。そういう意味でタクシーも公共交通なので、目標値の数値にタクシーの利用者数はなぜ含まれないのか。
- 事務局 タクシーも公共交通であると認識している。現行の公共交通基本計画においてもタクシーを含めていなかったことと、利用者数の把握が困難であるため、目標値についてはタクシーを含めていない。
- 委員 施策とコストの関係はどう考えているか。
- 事務局 施策の実施にはコストが必要だが、利用者が増えることで増収分をサービス向上につなげる正の循環を実現したい。また、施策についても優先順位を設けて効果的なものを重点的に進めたい。
- 委員 まちづくりとの連携を考えたときに、バスに乗ってみたい、楽しくなるようなアイデアはないか。乗務員も含めて明るくなるような施策があると良い。
- 事務局 バス事業者と共に検討し、協力を得ていきたい。
- 委員 時間帯によっては利用の少ない便もあると思うが、現在の輸送力は適正か。
- 事務局 平日昼間、土休日は輸送量が落ちるため、そこを対象とした利用促進を考えており、観光利用等をまちづくりと連携して実施したいと考えている。
- 委員 鉄道への IC カード導入やバリアフリー化には支援をお願いしたい。

- 委員 運転手も高齢化している中で、運行支援システムの導入やベビーカー・車いす利用対応は負担増にならないようにしてもらいたい。
- 事務局 運行支援システムについては、負担増ではなく、運転手の負担軽減を目的としたものである。ベビーカー・車いすの対応については、現在もすでに行政・事業者・NPO と共に固定方法の勉強会を行っており、その成果も今後活用していきたい。
- 委員 高齢者が利用しやすいような割引運賃等を設定してもらいたい。また、分かりやすい運賃というのは、具体的にどういうものか。
- 事務局 おいでんバスの運賃は民間バスよりも廉価に設定されている。また、更なる割引についての要望もあるが、収入減にもつながりかねないため、サービスレベルの維持を前提としながら可能であれば検討する。また、わかりやすい運賃として現行の100円単位の運賃を踏襲していく。
- 委員 総合交通体系の中での位置づけや、市役所の他部局が行っている事業との関係が整理されるとわかりやすいのではないか。
- 事務局 交通まちづくりビジョンに基づいて全体を見ている。
- 委員 アンケートについては、本当に利用したい人の意見が反映されにくいのではないか。民生委員などを通じた調査も検討してはどうか。
- 事務局 アンケート以外にも、Eモニター制度、地域バス運営協議会へのヒアリングも実施し、幅広く声を集める。
- 委員 公共交通は社会基盤の一つなのか、これまで通りの民間事業なのか。社会基盤であれば、収支率以外の面も考慮するべきではないか。
- 事務局 社会資本という位置付けは今後も守っていく。収支率の数値についてはあくまでも目安であり、これが達成出来ないからといって廃止をするという意味ではない。
- 委員 計画に記載はないが、今後予想される運転手不足への対応と、バス自体の魅力を高めるという意味で連節バスの導入は検討に値するのではないか。
- 委員 車いす利用者が乗車した場合、運転手が車いす固定に時間がかかる。乗客が手伝うことで固定時間を短縮できると思うので、固定方法等を車内に掲示してはどうか。
- 事務局 ありがたい申し出なので検討したい。
- 委員 高齢者には運転が危険になっても生活に必要ということで運転を続ける人がいる。本当に必要な人が使えるバスサービスとして欲しい。
- 事務局 地域バスについて、今後地域のニーズに合ったサービスを検討していける仕組みとしていくための方向性を計画で示していきたい。
- 委員 おいでん祭り等、夏のイベントの際、人が分散して利用するようにしてもらいたい。
- 事務局 イベント対応についても公共交通利用で混雑の平準化を図れるようにしていきたい。
- 委員 通勤時に道路が飽和しているため、ITS を活用した施策を進めるべきではないか。
- 事務局 TDM 施策については企業の協力も得ながら進めていく。

- 委員 災害発生時に道路が飽和することが予想されるので、安全運行ができるように情報共有をしてもらいたい。
- 事務局 災害のレベルによるが、みちナビとよたを活用した情報提供もしながら対応できるようにしていきたい。
- 委員 福祉有償運送についてもこの会議で検討して欲しい。
- 事務局 公共交通とは役割の切り分けをしており、具体的にはこの計画では触れない。
- 委員 地域バスは、原則地域外へ出ることはできないため、地域バスと基幹バスのネットワークづくりについて、目標を決めてやってほしい。
- 事務局 地域バスがより使いやすいようなネットワークとなるよう検討していきたい。
- 委員 子供が乗りたいと思うようなバスを導入して欲しい。

4 その他

- 事務局 次回会議は平成27年12月25日に開催を予定している。

以上